座ってダンス 生き生き

左京でパーキンソン病患者イベント



PDダンス体験で、札束を巻き散らす動きを表現する参加者ら＝京都市左京区・京都芸術大

パーキンソン病の人らのダンス活動「PDダンス」を体験する催しが14日、京都市左京区の京都芸術大であった。椅子や車いすに座ったままでもできるのが特徴で、市内外の患者や家族ら約30人が秋の情景や映画の配役の動きを、手足などで生き生きと表現した。

今年5月設立の「パーキンソン病とダンス研究会」（東山区）が初めて開いた。代表の井上茂樹さん（70）＝同区＝は5年ほど前に発病し、治療法や身体機能維持に向けた運動を探る中で、多様な人が参加できるPDダンスに出合った。

体験の催しでは、PDダンスの普及に取り組むダンスアーティスト、マニシアさん＝福岡市＝が講師を務め、「体で絵を描くようにダンスしましょう」と呼びかけた。

参加者は、紅葉した葉が木から落ちる様子は手をくねらせて表現したり、冷たい水の中に足をつけて驚く反応をスローモーションで再現したりした。マフィアが札束を抱えてまき散らす映画の場面も両手でダイナミックに表し、ダンスを重ねて心身がほぐれていくにつれ、笑顔が広がっていた。

（相見昌範）